

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	おんたけ有機構想による、「調和と循環の地域再生」モデル事業		
(2) 実施団体名	おんたけ有機構想連絡協議会	(3) 対象地域	木曾町開田高原及び木曾町全域
(4) 代表団体名	木曾町	(5) 推薦団体名	—

(6)実施した取組の内容	取組①	「特産品を活かした魅力あるメニュー」の開発			
	実施主体	おんたけ有機構想実現準備会(平成20年7月8日より「おんたけ有機合同会社」に組織変更。)			
	実施内容、 実施結果	当初提案により予定していた計画		実際の取組内容及びその結果	
		<ul style="list-style-type: none"> ●実施内容(時期/場所又は実施者) ・特産品を活かした加工品・メニュー開発に向けた研修及び視察。 <ol style="list-style-type: none"> ①5品目の加工品の製造技術に関する研修等(9～2月/木曾町内及び町外研修) ②メニュー開発のための視察研修 2カ所(9～2月) ・情報発信ツールの作成 <ol style="list-style-type: none"> ①パッケージデザインの開発 (9～2月) ②ポスター・パンフレット・タペストリー制作によるPR利用(9～11月) ・直売所整備に向けた勉強会を6回開催。(9～2月/木曾町外) ●取組の目的:木曾町開田高原の農産物を活かした魅力あるメニューと加工品による従来の観光メニューと併せた観光交流の活性化と農業の振興。 		<ul style="list-style-type: none"> ●実施内容(時期/場所又は実施者) ・特産品を活かした加工品・メニュー開発に向けた研修及び視察。 <ol style="list-style-type: none"> ①5品目の加工品の製造技術に関する研修等(延べ15回実施計画のうち、1月末までに8回実施済、加工工場竣工後の2月に残り7回の実施予定/木曾町及び大阪で実施) ②メニュー開発のための視察研修 2箇所(11月に九州、1月に長野県内で実施済み。) ・情報発信ツールの作成 <ol style="list-style-type: none"> ①パッケージデザインを開発し、試作品のパッケージやポスターに使用済み(10月) ②ポスター・パンフレット・タペストリーのデザインは制作済(1月)、PRのために配布する。(2月予定) ・直売システムの構築に向けた勉強会 延べ6回中4回実施(1月まで/福島県及び県内)、残り2回を実施する。(2月予定) ●取組の結果:地元農産物を活かした魅力ある加工品・メニュー開発による特産品の販売促進と併せて、情報発信ツール等を活用した開田高原のPRによる来訪者の増加が見込まれ、来年度以降の地元レストラン・直売所等に販売額の増加による地域観光の活性化と農産物の販売額の増加による農業振興が期待できる。 	
		取組②		「地域を担う人材育成」事業	
		実施主体	開田高原地域協議会		
実施内容、 実施結果	当初提案により予定していた計画		実際の取組内容及びその結果		
	<ul style="list-style-type: none"> ●実施内容・時期:「食」の地域づくりに向けた講習会開催(1回) 9月～2月 ●実施場所:木曾町開田高原 ●取組の目的:旅館・ペンション等の宿泊施設や飲食店等広く住民を対象とした、開田高原の産品を活かしたメニュー開発・料理指導の講習会を開催し、「食」を担う人材を育成する。 		<ul style="list-style-type: none"> ●実施内容・時期:「食」の地域づくり講演会 1月27日に開催。 ●実施場所:木曾町開田高原。 ●取組の結果:専門家を招き、「食」の地域づくり(木曾町及び開田高原の特産品を活かして～)と題した講演会を開催。開田高原を中心に飲食業者や宿泊業等関係者や一般住民50名の参加を得て、魅力あるメニュー開発に係る人材の育成と、「食の地域づくり」に向けた機運を醸成。 		

	取組③ 実施主体	「首都圏マーケティング」と体験型観光の情報発信 木曾町	
	実施内容、 実施結果	<p>当初提案により予定していた計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ●実施内容・時期：首都圏マーケティング・・・再委託によるアンテナショップ展開/体験型観光モニターツアー実施1回/雑誌広告・WEB広告等(体験型観光情報の発信) 9月～2月に順次実施。 ●実施場所：東京都内及び木曾町開田高原 ●取組の目的：木曾町の特産品を、首都圏においてチラシ・パンフレットやWEB等を組み合わせて情報発信・試験販売し、併せて試作加工品のモニタリングを行うことで都市部住民のニーズの把握と木曾町のPRを行う。さらに農地や特産加工施設等を活用した体験型観光メニューによる都市部からの誘客を進めるため、交流体験ツアーを実施し、集約したデータや意見等を今後の特産開発と観光振興施策等に活用する。 	<p>実際の取組内容及びその結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ●実施内容・時期：常設アンテナショップで月1回「木曾町の日」を、各地での出前アンテナショップで木曾町の特産品についての情報発信等を実施。(全5回実施。実施例：11月1日～3日、東京神田で加工品のモニタリング調査(対象者279名)を実施。)/体験型観光モニターツアー(2月7・8日 1泊2日)実施予定。参加者は旅行雑誌記者を含めアンテナショップ活動を通じて募集。開田高原のほ場で開催する「かまくら祭り」、蕎麦打ち、地元の漬物「すんき」を組み合わせた開田高原の食体験を実施予定。/アンテナショップWEBページ及び、月刊コロムブス1月号誌面で広告を実施。新聞広告(「スポーツ報知」2月19日)にモニターツアーレポート記事等掲載予定。 ●実施場所：東京都内及び木曾町開田高原 ●取組の結果：情報の発信と、モニタリング調査により、都市住民のニーズに関する意見をデータとして集約し、特産開発と観光振興施策等に活用する。開田高原でのモニターツアー(体験観光メニュー)では、今後の体験型観光へ向けた検討資料を得るとともに、新聞へのレポート記事等による効果的な情報発信により、来訪者の増加が見込まれる。
	取組④ 実施主体	「バイオマスプラント」導入調査・検討事業 おんたけ有機構想実現準備会(平成20年7月8日より「おんたけ有機合同会社」に組織変更。)	
	実施内容、 実施結果	<p>当初提案により予定していた計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ●実施内容・時期：9月～2月 開田高原住民を対象とした勉強会 1回/現地視察研修 北海道・埼玉県/バイオマス資源活用基礎調査業務による事業化可能性の分析 ●実施場所：講演会・木曾町/視察・埼玉と北海道/「バイオマス資源活用基礎調査」・木曾町 ●取組の目的：木曾町におけるバイオマス資源の既存資源量、資源の利活用に係る経費について把握・分析し、実際に農家がバイオマス堆肥を活用した場合の事業化可能性について検証するとともに、講演会と視察研修により循環型農業への協力体制を構築する。 	<p>実際の取組内容及びその結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ●実施内容・時期：バイオマス講演会は専門家を招聘して1月17日に実施。畜産農家等52名の参加を得、循環型農業の推進協力体制構築へ向けた意識醸成が出来た。/視察はプラント稼働状況等の把握と導入判断の検討材料とするため、長野県阿南町(埼玉県)の施設は北海道視察地と同メーカーにつき変更)へ12月22日参加者10名で実施した他、開田高原と同条件の寒冷地(北海道浜頓別町)で厳冬の稼働状況等の視察を1月29日参加者7名で実施。/バイオマスプラント導入・検討調査業務(12月1日～1月31日)：事業の採算性等について分析検証中であり、事業実施可能性に係る判断材料が整理される予定。 ●実施場所：講演会・木曾町/視察・長野県阿南町、北海道浜頓別町/「バイオマスプラント導入・検討調査業務」・木曾町 ●取組の結果：専門家による基礎調査データを、視察研修の成果を合わせて検討することで、今後のプラント整備に向けた具体的な資料を得ることができる予定。さらにこれらの資料と講演会の成果により循環型社会への農家等地域の意識向上と協力体制構築が見込まれる。
(7)実施体制		<p>平成20年度の取組実施における体制・役割分担</p> <p>おんたけ有機構想連絡協議会：以下の3団体から構成。 ●おんたけ有機構想実現準備会(平成20年7月8日より「おんたけ有機合同会社」に組織変更。)：取組①「メニュー開発」と取組④「バイオプラント」を担当。 ●開田高原地域協議会：取組②「人材育成」を担当。 ●木曾町役場：取組③「首都圏マーケティング」と、事務局を担当。</p>	<p>取組の実施を踏まえた反省点</p> <ul style="list-style-type: none"> ●おんたけ有機合同会社：本連絡協議会の柱であるおんたけ有機構想実現準備会は、7月に住民出資による合同会社へ組織変更し、取り組み体制を強化することで、本事業の取組や自社加工工場建設等、事業が重なり負担が多いスケジュールに対応することができた。 ●開田高原地域協議会：開田高原地域における循環型農業への取組に向け、合同会社との連携協力により住民意識の高揚を図ることができた。 ●木曾町役場：開田高原地域の支所と木曾町本庁関係部局の協力で概ね円滑に事業を実施できた。

(8)取組により得られた成果	○成果1→ 「魅力あるメニュー」開発品目	
	H19 1品目	H20(当初予定していた目標) 5品目
	H20(実際に得られた成果)	
	開発加工品5品目(コーンスープ、ゴーフレット、豆腐、納豆、和菓子)は、試作品を作成した後にアンテナショップ等で試験販売と聞き取り調査(モニタリング)を行い、味・包装等の改良をすすめ完成させた。それらの開発品は、「おんたけ有機合同会社」が事業実施主体となり1月末に竣工予定の自社工場で、合同会社の社員が加工技術等を習得後、製品化し、生産できる見込み。また、開発品の豆腐を利用した開発メニューとして、11月に実施した視察研修結果をいかしたレシピが2月に完成予定であり、1月に開催した講演会により「食の地域づくり」に向けて意識が向上している地域の宿泊施設(旅館・ペンション)や飲食店等での提供が見込まれる。	
	○成果2→ モニターツアー参加者数	
H19 0人	H20(当初予定していた目標) 20人	
H20(実際に得られた成果)		
常設・出前アンテナショップで毎月発信した木曾町の豊かな自然環境や観光施設、特産物や伝統工芸品等の多彩な地域資源等の情報を踏まえ、アンテナショップ等で体験型観光モニターツアーの参加者を募集、旅行雑誌記者等マスコミを含めた参加者20名以上で実施する予定。集約するデータや意見等を今後の特産開発と観光振興施策等に活用する。ツアーレポートと冬季の木曾観光情報は2月19日のスポーツ報知紙面で発信し、より効果的なPR効果を得ることを企図。		
○成果3→ 循環型農業推進協力農家戸数(家畜排せつ物の提供及び生産堆肥の使用について協力同意を得た農家数)		
H19 0戸	H20(当初予定していた目標) 10戸(開田高原畜産農家28戸中)	
H20(実際に得られた成果)		
循環型農業への地元農家の意識向上のため、バイオマス講演会を1月開催。視察研修の成果と、事業規模・採算性等に関する調査結果による協議会内の検討結果を踏まえて関係農家への説明会等を行い、地域の協力体制を構築、協力農家組織であるバイオマスプラント計画準備会を設立し、10戸以上の協力同意を得られる見込み。		
(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点	<p>1. 農産加工品5品目・メニュー2品目開発は概ね完了。今後、開発を継続し、今年度整備した加工場、来年度整備予定の直売所・レストラン(全て農林水産省の農山漁村活性化プロジェクト支援交付金で整備)で製造・提供する加工品等を充実する必要がある。</p> <p>2. 講演会開催は、「食」の面から活性化する取組の第一歩。今年度の取り組みを契機に、時代のニーズにあった原材料の生産やメニューの提供等を農家、宿泊・飲食業等多くの関係者を巻き込んだ活動とする必要がある。</p> <p>3. 首都圏マーケティング事業は、モニターツアー等の成果を得たが、この成果をいかすため、木曾町開田高原の情報発信と加工品のモニタリング等を継続し、木曾町及び地域の商工業者等が一体となって取り組める体制作りと本格的常設型ショップ展開に向けた検討が必要。</p> <p>4. 循環型農業への農家による協力体制構築を踏まえ、今後は堆肥化プラント建設に向けた地域全体の意識を高め、具体的な事業計画の立案が必要。</p>	
(10)平成21年度以降の活動の見込み	当初提案に予定していた平成21年度以降の展開	今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度
	<p>1. 農村レストランメニュー開発と特産加工品開発事業 水産加工品とレストランメニュー開発</p> <p>2. 地域を担う人材育成事業 直売所及びレストラン従業員の研修・育成</p> <p>3. アンテナショップによる市場調査と地域PR事業 合同会社による本格アンテナショップに向けたテスト出店</p> <p>4. バイオマスプラント導入に向けた調査・研究事業 プラント整備計画の策定とバイオマス多目的利用検討</p>	<p>1. 水産加工品開発 漁醤等の研究と製品開発とレストランメニュー(イワナ等水産物を活用した加工品)の作成。(実施主体:おんたけ有機合同会社)[合同会社売り上げからの自主財源で対応予定。]</p> <p>2. レストラン従業員や食に関わる地域の人材を育成するため、専門家招致による勉強会開催。[開田高原地域協議会の自主財源で対応予定。]</p> <p>3. アンテナショップ展開を継続し、常設店舗出店への検討準備を進める。[活用を希望する制度等:木曾町自主財源及び元気づくり支援金(長野県)で対応予定。]</p> <p>4. バイオマスプラント建設に向けた協力体制の強化と整備計画の策定。[活用を希望する制度等:ソフト事業は木曾町自主財源で対応予定。ハード事業は農山漁村活性化プロジェクト支援交付金を要望]</p>

「おんたけ有機構想」による、「調和と循環の地域再生」モデル事業 -おんたけ有機構想連絡協議会（長野県・木曾町）-

農畜産業の業況低迷、観光客の伸び悩みに直面する開田高原において、生産から消費、廃棄物利用までの循環リサイクルの上に、環境負荷の小さい農業を確立する。これにより、美しい自然環境に加えて、ブランド農畜産物と料理、さらには農業自体を観光資源とする新たなビジネスモデルを創出する。

① 「特産品を活かした魅力あるメニュー」の開発

実施主体:おんたけ有機合同会社

(おんたけ有機構想実現準備会から組織変更)

- 実施内容:地元農畜産物を活用した加工品の直売所での販売及び豆腐を利用したメニュー開発による農家レストランや民宿での料理の提供。5品目の加工品とメニューを開発することが出来た。
- 地元特産のスイートコーンによる加工品2品目を開発し試験販売を経て、今年度整備した自社工場により2月から本格生産開始
 - 大豆の加工メニューとして、豆腐(豆腐アレンジ料理レシピ)、納豆の2品目を開発。豆腐の本格生産・販売を開始
 - 大きな花豆を使った和菓子の本格生産・販売を開始



11月23日 現地指導・試作状況



スイートコーンによる開発加工品
(コーンスープ、コーンブレッド)



1月27日 食の地域づくり講演会

② 「地域を担う人材育成」

実施主体:開田高原地域協議会

- 実施内容:開田高原の特産品を活かし、旅館等の宿泊や飲食店関係者・農家等の幅広い住民を対象に専門家を招聘して講演会を開催し、「食」による活性化を担う人材を育成。
- 「食」の地域づくり講演会
 - 1月27日に開催。地域住民50名の参加により木曾町及び開田高原地域全体で「食」の面からのレベルアップによる観光地としての魅力アップに向けた機運を醸成することが出来た。

③ 「首都圏マーケティング」と体験型観光の情報発信

実施主体:木曾町

- 実施内容:開田高原をはじめとする木曾町の特産品を、首都圏において試験販売を行い、都市部住民の意見やニーズを把握した。また、体験型観光のモニターツアーを実施することで、加工品や魅力あるメニュー、体験観光メニューの開発に向けた意見を得るとともに、木曾町の豊かな観光資源の情報発信を行った。
- 都内のNPOと協力し、アンテナショップ事業を展開することで、加工品のモニタリングや特産品等の情報発信を行うことが出来た。
 - 冬季の畑を活用した体験観光モニターツアーを実施し、マスコミ関係者等の参加を得て、オフシーズンにおける体験観光メニューづくりに向けた貴重な意見を得ることが出来た。
 - モニターツアーの成果と冬季の観光情報を、新聞への記事広告掲載等により首都圏を中心とした全国へ発信することが出来た。



11月2~4日 神田スポーツ祭りイベント
会場での加工品の試験販売とPR活動



1月17日 バイオマス講演会

④ 「バイオマスプラント」導入調査・検討事業

実施主体:おんたけ有機合同会社

(おんたけ有機構想実現準備会から組織変更)

- 実施内容:家畜排せつ物や間伐材、雑草等の有機物をバイオマスプラントで堆肥化し循環型農業を確立するため、導入施設の検討と資源量・販売予測等を専門家の調査と視察研修を併せて実施した他、バイオマス講演会と先進地視察により農家の協力体制を構築した。
- バイオマス講演会を実施。農家等52名の参加で循環型社会構築への意識醸成を図ることが出来た。
 - バイオマスプラント導入に向けた基礎調査と厳寒地域での稼働施設等先進地の視察により、今後のプラント整備計画作成に向けたデータや運営に関する貴重な情報を得ることが出来た。